市指定文化財（有形・考古資料）

平成１７（２００５）年７月２５日指定
所有者　船橋市

瑞花双鳳五花鏡・梅花文鏡筥（残欠）

平成１２年に印内台遺跡群（２７）の発掘調査で見つかった土坑墓から、「瑞花双鳳五花鏡」が「梅花文鏡筥」に収められた形で、出土しました。今からおよそ９００年前の、平安時代の終わり頃に作られたものです。この印内台遺跡群は、船橋市を代表する古代から中世にかけての遺跡で、船橋市南西部の台地上（印内１・２丁目、西船２～４丁目）に広がっています。

「五花鏡」は梅の花を模したものといわれ、わが国独特の鏡の形態です。上下に「瑞花」、左右に二羽の「鳳凰」の文様を配しているため、「瑞花双鳳五花鏡」と呼びます。現存する五花鏡の数は少なく貴重なものですが、発掘調査で出土したものはさらに少なく、とても珍しい例です。

「梅花文鏡筥」は木製漆塗りの筥で、蓋表に「梅花」が描かれています。その漆塗り工程や文様の技法の特徴には、古代の高級品から中世の普及品への過渡期的な特徴が認められ、漆工史上においても、大変重要なものといえます。

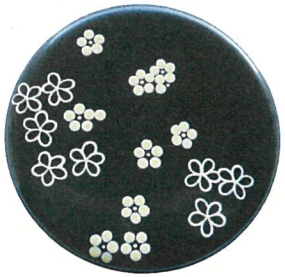
五花鏡と筥が一緒に出土した例は全国でも稀有で、船橋市の歴史を知る上だけにとどまらず、考古学的にも工芸史においても、非常に貴重な資料です。

また復元模造品は分析・調査・研究によって、当時の姿を再現したものです。

瑞花双鳳五花鏡（原品）

梅花文鏡筥（原品）

瑞花双鳳五花鏡（復元模造品）



梅花文鏡筥（復元模造品）
室瀬和美氏　作

※　写真は原寸大

船橋市教育委員会